



発行所 倉賀野神社
 〒370-1201 群馬県高崎市倉賀野町1263番地
 電話 027-346-2158
 F A X 027-346-2184
 例祭（秋季大祭）10月19日
 春季大祭 4月19日
 公式ホームページ www.chinju.info/



「国魂（くにたま）の池」のユスラウメ



手水舎近くのボケとサカキ

四月一日 月次祭（つきなみさい）の日に

境内のあちらこちらで春の草花だけでなく、小鳥たちのさえずりも随分にぎやかです。

毎月一日の月次祭は、国の安寧と皇室の御繁栄、そして私たち身の周りの地域の安全をとともに祈る神事です。儀式は朝六時半に始まり、七時前には散会となります。どうぞお誘い合わせてご昇殿ください。



開花したソメイヨシノ。でも、まだほとんどが蕾。



ハナモモ。背後には御本殿。

「おたずねのフクロウは、ここにいます！」



「社殿の彫刻で、^{ふくろう}梟が寝ずの番をしている、と聞いたけれど、いったい何処にいるの？」とよく聞かれます。

写真をヒントにどうぞ探してみてください。御本殿の南面です。そしてその近くの左方向には^{たか}鷹もいます。梟は聡明な判断力と知恵を象徴し、鷹は勇気と決断力を体現しているといわれます。

社頭所感 宮司 高木直明

元日の午後に発生した地震に、誰もが驚愕したことです。しかし震源に近い登半島地域にあつては、私たちの想像をはるかに超える災害であったことが、あとになってわかってきました。亡くなられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災地の皆様に心からお見舞いを申し上げます。

大地も海も、大きく傷つきました。港の岸壁は隆起し、山の千枚田には亀裂が深く入りました。多くの家屋が損壊し、水や電気の供給も遮断され、人々の営む産業も大きな損害を被りました。天皇皇后両陛下には三月二十二日に輪島市と珠洲市をご訪問になり被災地を見舞われました。現地に負担を掛けまいと、両陛下は自衛隊ヘリで彼の地を移動されたと聞きました。被災された方々の生活が一日も早く復旧し、安全に暮らすことができますように、と祈るばかりです。季節はめぐり春祭りを迎える頃となりました。人々が鎮守の杜につどい、分け隔てなく世の中の皆の幸せを祈る。わが国古来の祭りの意義に、改めて思い至ったことでもあります。

江戸時代の「天明神輿」奉納記念物

神輿は倉賀野宿の脇本陣・須賀庄兵衛家の七代吉抵の妻、お円さんが天明五年（一七八五）、神社に奉納したものです。天明三年の「浅間山焼け」の大災害が発生したすぐ後の頃です。

製作は同四年。細工は大坂北御堂前の宮屋九郎兵衛と墨書にあります。聞けば、同じ中山道筋の本庄宿本町に伝わる神輿も同じ宮屋九郎兵衛の明和四年（一七六七）の作といわれています。

戦後長く傷んだままだった神輿は、平成の御大典の時に修復されました。以来概ね四年に一度の渡御を重ねてきました。五年前の令和の御大典では御代替りを奉祝して、神輿が倉賀野町内を渡御巡行しました。コロナ禍も鎮静して、久々に次の出番が待たれることです。



「御大典奉祝 天明神輿神幸祭」令和元年5月に斎行されました。

おもてなし館に「太鼓橋」欄干の石を移設

かつて倉賀野宿の往還の仲町と下町の境に石造りの「太鼓橋」が架かっていました。大名行列も通過したという橋です。

その欄干石といわれる部材が民家の庭から発掘されたのは、今から十年以上も前のことです。当座の保管場所として倉賀野神社に運搬し、境内の一角に置かれていましたが（左下写真）、そのまま年月が経っていました。

このたび関係者の尽力により、石柱が境内から搬出され、市が運営する「倉賀野古商家おもてなし館」の中庭に左上写真のように組み立てられました。この欄干石については、本紙第63号でも「中山道倉賀野宿太鼓橋のこと」として紹介しています。左下QRコードからご覧ください。



太鼓橋のこと



小さなブックマルシェ

三月九日の土曜日、一日だけの「本屋さん」がやってきました。参拝者たちは参道の脇で本を開いて楽しんでいました。かつて神社に巡回してきた市の移動図書館「はばたき号」が思い出されます。境内には臨時のカフェも開店して終日の賑わい。いつかまた本屋さんさんが境内にやってくる日を楽しみに。



ランドセルお祓い式

小学校に新入学する児童が勸学祭・ランドセルお祓い式に参拝しました。毎年三月の恒例の行事です。

登下校が安全でありますように、楽しい学校生活が始まりますようにと、玉串を捧げて祈りました。



倉賀野神社附属 太々神楽保存会 舞とお囃子会員募集！

社務所 ☎ 027 (346) 2158
どうぞお気軽にお問合せください



倉賀野神社奉賛会のご案内

奉賛会に加入して神様の御守護をいっそうに厚く戴きましょ。

◎奉賛会年会費 正会員 二千元 特別会員 一万元

祭典の振興、文化財の保存継承、地域の緑化保全にどうぞお力添え下さい。

お問合せ ☎ 027 (346) 2158

編集後記 ▼たまたまJ新聞で「AIを活用する」特集を見た。で、キーワードをいくつか入れて試しに文章を作らせてみて、思った、こりゃあ時間節約で便利。文章もそつが無い。▽・・・いや、待てよ、心が入ってないじゃないか！これだけで済まそうとしたら魂を売ったようなものだ！無性に反発心が沸き起るの、なんで？ 年のせいかな。▽できるの、いい悪いは別として、AIでなく自らひねり出したものです、本紙は。（直）

伊勢神宮に参拝

市内の神社関係者が合同で

二月、群馬県神社庁高崎支部(高木直明支部長)の一行が伊勢神宮に参拝しました。高崎市内の各神社の神職と総代等神社関係者が親睦と研修を兼ねて集合し、大型バス一台で参拝旅行を実施したものです。当社からは高木宮司、亀山憲明総代会長等七名が参加しました。

一日目は豊受大神宮(外宮)に参拝。ここは心のふるさとこそぞる詣れば旅ごころうたた童にかへるかな。その後、夫婦岩で有名な二見興玉神社に参拝。この日の二見ヶ浦は海風が吹き荒れて、浜辺でほんとうに裸を体験したかのよう。一行は鳥羽に宿泊しました。

二日目の朝、皇大神宮(内宮)に到着して五十鈴川の宇治橋を渡ると、なにごとのおはしますかは知らねどもかたじけなさに涙こぼる。の境地に。正面の石段を登りきったところで一同は神職のお祓いを受け、特別参拝として、御垣内(板垣の内側)に案内されました。こうしてめでたく参拝の後、内宮神楽殿で御神楽を奉納し、続いて別室で饗膳がおこなわれました。饗膳は一般の神社でおこなう直会

にあたるもので、天照大御神にささげた神饌(お供えもの)のお下がりを皆でありがたく頂戴したことです。



皇大神宮御料御馬の本勇号。厩の中で参拝客を見守っていた。

伊勢の神宮は、皇室の御祖神をお祭りする神社であることから、日本の総氏神ともいわれます。神宮では二十年ごとに「式年遷宮」がおこなわれてきました。正殿を始めとする殿舎と御装束神宝をすべて新しく造り替え、大御神に新宮へお遷り(遷御)いただくお祭りです。前回の第六十二回式年遷宮は、平成十七年に準備が始まり、同二十五年に無事に遷御の儀を終えました。

次回第六十三回の御遷宮の期日は、天皇陛下の御治定のもとに正式に決まることですが、前例に倣えば令和七年には準備が始まり、同十五年に遷御を迎えることとなります。国民ごぞつて奉賛の誠を捧げましょう。

二月十一日 冠稲荷初午大祭

境内神社・冠稲荷さまの例大祭です。二月の暦の初午に近い日として、「建国記念の日」をお祭りの日と定め、毎年おこなっています。初代神武天皇の御即位に由来し、かつて国の「紀元節」と定められていた日です。晴天に恵まれたこの日、冠稲荷さまの御社頭で午前十時に神事が始まり、神前に五穀豊穰と商売繁盛を祈願しました。続いて豊栄舞、福投げ、創作紙芝居「飯玉縁起」、湯立神事などがおこなわれました。



倉賀野小五年生の「豊栄舞」。二人舞と四人舞を奉納しました。



福男、福女による福投げ。待ちかねた歓声とびかかう中、掛け声は「福は内、福は内」です。



参拝者は湯立釜から立ちのぼる湯気を浴びて無病息災を祈りました。



神社総代の皆さんはそろいの半纏。拍子木の音も高らかに、紙芝居『飯玉縁起』が始まりました。

冠稲荷神社は、もともとは江戸時代の中山道倉賀野宿の横町地区に鎮座していた神社です。別名「三光寺稲荷」。祭礼には太々神楽や農耕・養蚕具の市が立つなど、大変な賑わいだったと伝えられます。

やがて明治の末頃に政府が進めた神社合併政策にともない、上町の倉賀野神社に合祀されることになりました。有名な「飯盛女奉納の石玉垣」もこのときに境内に移設されてきたものです。なお、昭和になってから横町のもの場所には社殿が復祀再建され、同町内では現在も毎年四月八日に祭礼が行われています。

社務日誌

令和五年秋〜六年春

▽秋季例大祭 十月十九日 大祭に先立ち十月十五日には境内神饌で抜穂祭をおこない、刈り取ったばかりの稲の初穂を神前にお供えました。また町内や近在の農家からも「掛税」として稲穂を奉納いただきました。



稲穂の「掛税」

神楽殿では太々神楽や浦安舞・豊栄舞を神前に奉奏。多くの参拝者で賑わいました。



出番を待つ太々神楽の「白狐」

午後には倉賀野中三年生の「中学生神輿」が元気に町に練り出しました。



中学校正面のロータリーで

▽くらがの松市(まついち) 十二月十七日 倉賀野に古くからあった年末の「松市」を復活させたいと、有志の方々から相談を受けました。場所はぜひ神社で、との要望を受けて今回初めて実現したものです。お正月飾りや和菓子、骨董品など様々なお店が境内に出店して、人々が大勢集まりました。



今年も、年末に「松市」を開催の予定

▽年越大祓式 十二月三十一日 知らず知らず身に付いた「つみ・けがれ」を祓い除ける神事です。参列者は神前に「大祓詞」をいっしょに奏上し、各自が持ち寄った「身代わり形代」に託して災いのもとを祓い除け、清々しく新年を迎えることができました。

▽北向道祖神大祭・どんど焼き 一月十五日 早朝八時、境内の北向道祖神さまの前に参集し、地域の安全と人々の無病息災を祈願しました。続いて古神札焼納祭(どんど焼き)がおこなわれました。

年末から正月にかけて境内に臨時に

設置される「おふだ納め所」のテントは、古い御神札や松飾りでもう満杯。社務所では危険物や不燃物など、目的外のものを持ち込まぬよう皆様に呼びかけています。

「どんど焼き」は高崎東消防署に許可願を提出し、併せて地元消防十七分団の協力のもとに、今回も安全におこなうことができました。

▽樹木の剪定工事 二月二日 南大鳥居、国魂池の周辺のマツやヒノキ等の剪定作業を実施しました。



大鳥居にかかるヒノキの枝を剪定

▽冠稲荷「初午大祭」 二月十一日 境内社・冠稲荷さまの毎年恒例のお祭りです(本紙二面に詳報)。

▽天神社例祭 二月二十五日 境内社・天神さまの御祭神は菅原道真公です。学業成就、受験合格、スポーツ必勝、技芸上達など、氏子崇敬者の願いを祝詞に申し上げました。

▽「甲子大黒天」 正面に敷石を工事 二月 境内の天神社、北向道祖神社なども、正面敷石を平らに整備しました。

工事は氏子篤志家のご奉仕によるものです。

なお甲子大黒天さまの正面に「灯籠」を建立したいとの声が多く寄せられたのを受け、ただいま参拝の皆様へ寄附奉納の呼びかけをしています。詳しくは社務所にお問合せ下さい。

電話027(346)2158

▽「祓詞」書写会 二月二十四日 神前に唱える「祓詞」という短い祝詞があります。これを、声に出して読み上げ、書き写すという試みです。午前中、参集殿に集まった参加者は皆、静かに心を集中して臨んでいた様子です。そして終わると、どなたも明るく清々しい表情で散会となりました。



▽境内に桜を植樹(三月) OCB会(オールドチェリーブロッサム会)の皆様のご芳志により、境内に桜の苗木が植樹されました。エドヒガンとオオシマザクラです。OCB会は高崎市の観音山丘陵を中心に、山桜保護や自然観察などのボランティア活動を続けています。